主要検査項目と基準範囲/臨床判断値（九州がんセンター）

2022年11月1日現在

生化学・免疫検査

検査項目略称	検査項目名称	基準範囲または臨床判断値	単位	検査の目的
TP	総蛋白	6.6～8.1	g/dL	血液中の蛋白質濃度です。栄養状態や肝臓・腎臓の機能をみています。
ALB	アルブミン	4.1～5.1	g/dL	血液中の蛋白質のひとつです。肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能の低下で低くなります。
T-Bil	総ビリルビン	0.4～1.5	mg/dL	血液中の赤血球中のヘモグロビンに由来する色素です。肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標となります。
D-Bil	直接ビリルビン	≦0.4	mg/dL	
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	U/L	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	男:10～42 女:7～23	U/L	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。肝臓細胞の障害を敏感に反映します。
LD	乳酸デヒドロゲナーゼ	124～222	U/L	広く体内各臓器に存在する酵素で、臓器の損傷の程度をみる一次的な検査として重要です。特に肝臓や血液の病気などで高くなります。
ALP	アルカリフォスファターゼ	38 ～ 113	U/L	肝臓・胆道や骨の状態をみています。成長期にある小児は成人よりも高い値を示します。
γGT	ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ	男:13～64 女:9～32	U/L	肝臓や胆道の病気で異常を示し、アルコール性肝障害でも高くなります。
ChE	コリンエステラーゼ	男:240～486 女:201～421	U/L	肝臓の病気で低くなり、有機リン剤による中毒でも低くなります。脂肪肝では高くなります。
CK	クレアチンキナーゼ	男:59～248 女:41～153	U/L	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。 心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気で高くなります。
AMY	アミラーゼ	44～132	U/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の病気で高くなります。
CRP	C反応性蛋白	0.00～0.14	mg/dL	体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などでも高くなります。
Fe	血清鉄	40～188	μg/dL	酸素を運ぶヘモグロビンの構成物質の一つです。出血や鉄欠乏性貧血で低くなり、肝臓に障害が生じた時は高くなります。
TC	総コレステロール	142～248	mg/dL	体の脂肪成分の一つで、血管を強化する物質として重要です。多すぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因となります。
LDL-C	LDLコレステロール	65～163	mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、増加するとコレステロールが血管壁に溜まり、動脈硬化が促進します。動脈硬化の直接的な危険因子です。
TG	中性脂肪	男:40～234 女:30～117	mg/dL	体の脂肪成分の一つで、多すぎると動脈硬化の原因となります。食後に高くなります。
UN	尿素窒素	8.0～20.0	mg/dL	蛋白質が分解されたもので、腎臓の機能が低下すると高くなります。
CRE	クレアチニン	男:0.65～1.07 女:0.46～0.79	mg/dL	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排泄されます。腎臓の機能をみています。
UA	尿酸	男:3.7～7.8 女:2.6～5.5	mg/dL	細胞をつくる際の成分であるプリン体が分解してできた老廃物で、腎臓から排泄されます。痛風や腎臓の機能障害の指標になります。
GLU	グルコース	73～109	mg/dL	血液中のブドウ糖濃度で体のエネルギーとして大切な栄養素です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けるので空腹時に検査をします。
Na	ナトリウム	138～145	mmol/L	体内の水分調節の状態をみます。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで高くなったり、低くなったりします。 カリウムは心筋などの筋肉の活動にも関係しています。
K	カリウム	3.6～4.8	mmol/L	
Cl	クロール	101～108	mmol/L	
Ca	カルシウム	8.8～10.1	mg/dL	骨の病気やさまざまな内分泌の病気で変動します。また、心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。

主要検査項目と基準範囲/臨床判断値（九州がんセンター）

2022年11月1日現在

生化学・免疫検査

検査項目略称	検査項目名称	基準範囲または臨床判断値	単位	検査の目的
TSH	甲状腺刺激ホルモン	0.35～4.94	μIU/mL	甲状腺ホルモンの分泌を調節する脳から出されるホルモンで、甲状腺の病気を診断するための検査です
FT3	遊離トリヨードサイロニン	1.68～3.67	pg/mL	甲状腺ホルモンの一種でエネルギー代謝の調節や自律神経をコントロールしています。 甲状腺機能の亢進、または低下で日常生活に支障を来たすことがあります。病気の程度や治療効果の目安となります。
FT4	遊離サイロキシン	0.70～1.48	ng/dL	
AFP	アルファーフェトプロテイン	0.89～8.78	ng/mL	肝がんで高くなります。肝炎や肝硬変でもやや高くなります。
PIVKA-Ⅱ	ビタミンK依存性凝固因子前駆体Ⅱ	<40.0	mAU/mL	主に肝臓のがんで高くなります。AFPなどと併せて検査すると肝臓の状態がさらによくわかります。
IRE1	エラスターゼ1	≦300	ng/dL	膵臓に多く含まれるため、膵臓の疾患の判断や膵臓がんの腫瘍マーカーとして検査されます。
CEA	癌胎児性抗原	≦5.0	ng/mL	大腸がんをはじめとする消化器のがんや肺がんなどで高くなります。高齢や喫煙でもやや高くなります。
CA19-9	癌抗原19-9	≦37.0	U/mL	主に膵臓や胆道の腫瘍で高くなります。糖尿病、胆石症、慢性の肺の病気でもやや高くなります。
CA15-3	癌抗原15-3	≦31.3	U/mL	主に乳腺の腫瘍で高くなります。
CA125	癌抗原125	≦35.0	U/mL	卵巣腫瘍、子宮体部腫瘍で高くなります。妊娠初期や月経時・閉経前などでも一過性に高くなることがあります。
SCC	扁平上皮癌抗原	≦1.5	ng/mL	主に子宮頸部がんで高くなるほか、肺がんや食道がんでも高くなることがあります。がんではない病気でも高くなることがあります。
PSA	前立腺特異抗原	≦4.0	ng/mL	前立腺腫瘍で早期から高くなります。前立腺肥大症や前立腺炎でも高くなるので鑑別が必要です。
freePSA	遊離型前立腺特異抗原	設定なし	ng/mL	PSAに含まれる成分です。PSAと併せて検査することによって前立腺腫瘍の診断に役立ちます。
シフラ	サイトケラチン19フラグメント	≦2.1	ng/mL	主に肺がんで高くなります。ほかの慢性の肺の病気や肝炎、肝硬変などでも高くなることがあります。
proGRP	ガストリン放出ペプチド前駆体	<81	pg/mL	主に肺がんで高くなり、がんの再発や進行に伴い変動します。他の病気でも高くなることがあります。
sIL-2R	可溶性インターロイキン-2レセプター	122～496	U/mL	悪性リンパ腫で高くなりますが、他の病気でも高くなることがあります。

血液検査

検査項目略称	検査項目名称	基準範囲または臨床判断値	単位	
WBC	白血球数	3.3～8.6	$\times 10^3/\mu L$	白血球は血液の成分の一つで、異物の進入に対抗して体を守る働きをしています。 少ない場合は、体の防御反応が低下して、病気にかかりやすいことを意味しています。 白血球数の増減を知ることで、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。
RBC	赤血球数	男: 4.35～5.55	$\times 10^6/\mu L$	赤血球は体のさまざまな細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運び出す働きをしています。 この中心的役割を担っているのがヘモグロビンです。 ヘマトクリットは、血液中に含まれる赤血球の割合を%で表します。これらが低ければ血液が薄いということを意味しており、貧血が疑われます。
		女: 3.86～4.92		
Hb	ヘモグロビン	男: 13.7～16.8	g/dL	
		女: 11.6～14.8		
Ht	ヘマトクリット	男: 40.7～50.1	%	
		女: 35.1～44.4		
PLT	血小板数	158～348	$\times 10^3/\mu L$	血小板は血液の成分の一つで、血管に傷が出来ると直ちにふたをして血を止める働きをしています。 血小板の数が減少したり、その機能が低下すると血が止まりにくくなります。

凝固検査

検査項目略称	検査項目名称	基準範囲または臨床判断値	単位	
PT	プロトロンビン時間	9.6～13.1	秒	血液の凝固異常を調べる検査です。ワルファリン治療時に薬の量を調節するために測定します。
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	24.0～34.0	秒	血液の凝固異常を調べる検査です。血友病など出血性の病気の診断やヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。
Fib	フィブリノゲン	200～400	mg/dL	止血に関与する血液凝固因子の一つで、血液凝固（出血時に自然に血液が固まる）の仕組みに異常を来たす病気などで低くなります。 高い場合は炎症の指標となります。
FDP	フィブリノゲン/フィブリン分解産物	<5.0	μg/mL	血液中で血栓ができたときにそれを溶かす作用が働いているかを調べます。血栓症の診断や抗凝固療法の経過観察に有効です。
DD	D-ダイマー	<1.0	μg/mL	

一般検査

検査項目略称	検査項目名称	基準範囲または臨床判断値	単位	
蛋白	尿定性-蛋白	(－)	設定なし	尿に蛋白（アルブミン）が出ているかを表します。
糖	尿定性-糖	(－)	設定なし	尿にブドウ糖が出ているかを表します。糖尿病などで（+）になることがあります。
潜血	尿定性-潜血	(－)	設定なし	尿に血液が混ざっているかを表します。
便潜血	便潜血（便中ヒトヘモグロビン）	(－)	設定なし	便中に血液が混じっていないかを表します。大腸がんの診断の補助となります。